



新川堤の桜

筑波嶺

第 89 号

発行所：土浦協同病院
おおつ野四丁目 1 番 1 号

発行人：広岡 一信

題 字：登内 眞

令和 7 年 5 月 15 日発行

院長挨拶

2025年4月1日から私の院長就任2年目となります。昨年1月、河内敏行前院長から突然の就任要請をいただき、4月から職務を開始し、あっという間の1年でした。副院長の頃とは比較にならないほど多くの情報が毎日寄せられ、多方面にわたる課題、難題が山積していることを思い知らされました。解決したいと思っても、長年にわたって蓄積された事実や経過を理解する必要がある、どれもこれも一筋縄ではいきません。改善につながるはずの方策をいくつか実行してきましたが、現実には厳しく、満足できる成果を上げているとは言えないと思っています。

2024年度が医師の働き方改革元年で、それ以前から近隣病院の医師引き上げや救急外来の制限など診療縮小が起こっていたため、当院への負担が急増することが危惧されました。実際、3月までは急患が多く時間外労働は増えておりましたが、4月以後、Dr. J

OVを用いての調整にご協力いただいた結果、効率化が徐々に進み、一部の診療科医師を除いて時間外労働は減少しました。それでも茨城県厚生連6病院の中では、当院の時間外80時間超の医師数は毎月20人前後と一番多いという結果です。これは新たに設定された県南東3次医療圏はもちろん、圏外の遠方の病院からも積極的に重症救急患者を受け入れているため、現在の医師数では致し方ないと思います。また、インフルエンザなど季節性疾患による患者の急激な増加によって時間外労働が異常に増えてしまうこともあり、休息の取り方、タスクシフト、あるいは医療DXを工夫していくことはもちろんですが、行政に地域の患者の振り分けを行う仕組みを作っていたいただきたいと考えております。

病院の経営環境についてはコロナ関連補助金が完全になくなった2024年度から、診療報酬改定も収益上、全くプラスにはならず、厳しい試練の始まりとなっています。これは日本全国の急性期病院のおそらく9割が直面している、存亡をかけた大きな社会問題です。また物価高、人件費高騰、電気光熱費の上昇に加えて、10%の消費税が重くのしかかっています。

当院も移転からすでに9年が経過し、電子カルテや部門システムのバージョンアップを昨年春から

行っており、大型検査器械も更新時期が迫っているため、かなりの投資が必要と見込まれています。また、高価な医療材料を使っている最適な治療は急性期病院にとって必須の診療行為ですが、値引きがほとんどない診療材料が多く、消費税を支払うと差益がないばかりか、逆ザヤになって収益から差し引かれてしまっているケースも多々あり、経費を削減できるように診療プロセスも再検討する必要があります。

予定入院患者数の上限を上げたことで平日の病床稼働率は90%を超えることも多くなりました。しかし、忘れてはならないのが当院の看護師不足の問題です。特に最近、患者さんの重症度が上がっているため、一人一人にかかる看護と介護の負担が増していることが実感されます。継続して業務改善を図りながら看護師のみならず全職員の時間外労働を極力減らせるよう、皆で知恵を出し合って取り組んでまいりたいと思います。

忙しく働いているのに収支が改善しないという現状に対して、この1年間、原因を追究してまいりました。その結果、今までとは違った考えを取り入れるしか経営改善の方策はないのではないかと考えています。当院が将来にわたって地域医療になくてはならない病院であり続ける事が最優先事項であると認識しておりますので、どうか皆様のご理解ご協力を賜りたいと存じます。

論文発表報告

American Academy of Neurology (AAN), Annual Meeting 2024

脳神経内科 町田 明

2024 年 4 月 16 日にデンバーで開催された American Academy of Neurology (AAN), Annual Meeting 2024 でポスター発表して参りました (Bacterial Brain Abscess with paradoxical Reaction: Three Case Reports and Literature Review というタイトルの演題です)。昨年 2023 年も同学会で発表を行いました。今年も物価高と円安の影響を受けて、セブンイレブンでサンドイッチとサラダを購入するだけでも日本円で 3000 円近くかかるという状況で、できるだけ無駄遣いをしない質素な学会参加を心掛けました。海外の脳神経内科医の発表を見聞きし議論する中で、日本発のデータや新しい知見というのは、質の高さやデータの正確性などの点において、他国の脳神経内科医に一目置かれていることを肌で感じました。おそらく我々医療者のみならず、製造業などのいわゆるモノづくりも含めた Made in Japan の勝ち得た日本クオリティの信頼なのだと思います。私自身の発表が、先人達が築いたその信頼の伝統を引き継ぐものであったかは甚だ疑問ではありますが、このような貴重な体験を次の世代の若い先生方にもっと経験してもらえるようにバトンを渡していきたいと思います。

Contact aspiration for basilar artery occlusion safely reduces thepuncture-to-recanalization time

脳神経外科 廣田 晋

脳梗塞急性期、特に主要な大血管が詰まった場合、カテーテル治療が一般的となってきました。しかし再開通できなかったり、再開通に時間を要し、脳梗塞の伸展を止められないことも少なくありません。カテーテル治療の初期選択には、ステントリトリバー (SR)、吸引力カテーテル (CA)、および併用法があります。前方循環系では CA 法が優れ、

また併用法も日本で多いです。一方で後方循環系は頻度が少なく、より病態が多彩で、前述の 3 方法のいずれを選択すべきかは不明でした。今回、後方循環系の治療で CA 法がその他 (SR 法、併用法) と比べ優れているかを検討しました。当院を含めた東京医科歯科大学の関連 16 施設での観察研究を行い、84 例が登録されました。全例で有効再開通がなされ、それがカテーテルの初回操作で達成 (FPE) された割合は同程度でした。CA 法で有効再開通を有意に短時間に得ることができ、機能予後も良い傾向にありました。FPE が達成された 55 例に限定すると、治療時間短縮は患者さんの年齢や動脈硬化に関係なく、CA 法に独立して相関することがわかりました。本研究により CA 法がより早い FPE をもたらすと示唆されました。CA 法は拡張性にも優れ、FPE が得られなくとも様々な治療の追加が可能です。閉塞血管に関わらず CA 法が有利だとわかれば、緊急処置がよりスムーズになります。治療現場に役

Acta Dermato-Venereologica

皮膚科 加倉井 真主

今 回 、 スウェーデンの皮膚科雑誌 Acta Dermato-Venereologica (インパクトファクター : 4.0) に投稿した論文が掲載されましたので、ご報告致します。我々は左臀部の巨大な表在性皮膚脂肪腫性母斑 (Naevus lipomatosus cutaneous superficialis, 以下 NLCS) を経験し、その臨床像が珍しいため、クイズ形式にして論文を作成しました。NLCS は脂肪細胞が真皮で異所性に増殖する比較的稀な疾患で、単発型と多発型の 2 つに分類されます。本症例は多発型の NLCS でしたが、巨大 (32×10 センチ大) であり、過去に報告された巨大な NLCS 13 例 (最大径 15 センチ以上) と本症例を比較し、考察しました。ご興味のある方は、PubMed やインターネットで検索してみてください。

Fading and color reproducibility of nipple areola tattoos in Asian patients

形成外科 山本 真魚

この度 Archives of Plastic Surgery 誌に論文が掲載されましたので報告いたします。再建技術の向上により乳房再建だけでなく、乳頭再建も可能となりましたが、色付けには限界があり、医療用刺青が広く用いられています。本研究では刺青の退色、RGB 変化、色再現性について調査しています。刺青を入れる、術前、術直後、1 週間後、1 ヶ月後、3 ヶ月後、6 ヶ月後、12 ヶ月後をデジタル写真で撮影し RGB 値および輝度値を用いて評価しました。色再現性に関しては 12 ヶ月後の RGB 値を刺青の色見本と比較しています。結果ですが、RGB 値は刺青直後から 1 ヶ月後まで大きく変化し、RGB 値と輝度については、術前、1-3 ヶ月後、3-6 ヶ月後、6-12 ヶ月後に有意差が認められました。1 ヶ月あたりの褪色率は、直後 -1 週間では平均 0.087 でしたが、6 ヶ月 -12 ヶ月になると 0.006 に減少していました。12 ヶ月後の輝度は対側の乳頭より 9% 明るいものとなりました。色の再現性は、濃色または赤みを帯びた色素で高い傾向がみられました。刺青は 1 年経つと退色率は低くなるといっても続いており、輝度変化も 1 年後には対側より明るくなることから、美容的整容的観点で大きい乳頭再建では長い経過観察と、より適切な刺青技術と色の選択が必要だというのがこの研究でわかりました。

Journal of Rural Medicine

リハビリテーション科 村上 周平

この度、Journal of Rural Medicine に投稿した「Gait Analysis Using Three-Dimensional Motion and Ground Reaction Force Systems in Patients with Hemiplegia Treated with Botulinum Toxin Type A in Ankle Plantar Flexors」が掲載されました。

脳卒中後の下肢痙縮による歩行障害に対して、ボツリヌス治療および三次元動作解析を行い、患者様の歩行を客観的に評価しました。脳卒中後の下肢痙縮により、歩行障害や ADL 障害を呈している患者様に対してボツリヌス治療を行うことで、痙縮を減弱させることで、歩容および ADL の改善が可能になります。また当院で採用しております三次元動作解析および床反力計により歩行解析をすることで、各関節の可動域やモーメント、床反力などを測定し、歩行を客観的に評価できます。それにより、適切な投与量や投与部位を判断し、患者様の状態に合わせたボツリヌス治療を行うことが可能になり、歩行速度の改善や安定した歩行につながれると考えております。また、歩行解析により得られた 3D 動画を患者様と供覧することで、実際の歩行の問題点を共有でき、日々のリハビリのモチベーション維持にもつなげていけると考えております。

リハビリテーション科では、痙縮で困っている患者様に対して積極的にボツリヌス治療を行っております。引き続き各診療科の先生方や医療スタッフの協力をいただきながら、患者様により良い治療を提供できるように努めて参りたいと考えております。今後とも何卒宜しくお願い申し上げます。

土浦協同病院の役割を果たすために

統轄病院長補佐
滝口 典聡

2025 年は「団塊の世代」が 75 歳以上の後期高齢者になる年です。「団塊の世代」は第 2 次世界大戦後、1947 年から 1949 年のベビーブーム時代に生まれた世代で約 860 万人を数えます。なかでも 1949 年の出生数は 269 万人でした。一方 2024 年の出生数は 72 万人 988 人で統計開始以来最低となりました。この 1947 年（昭和 22 年）から 1949 年（昭和 24 年）に生まれた 4 人の大卒ホワイトカラーの物語を堺屋太一が月刊誌『現代』に連載した小説の題名が「団塊の世代」です。ここで言う『団塊』とは地層に見られる周囲と成分が異なり特に硬い塊を指します。つまり、他の世代と比べて飛び抜けて出生数が多い世代を表しています。75 歳以上の高齢者が医療費の約 4 割を消費すると言われています。この 2025 年問題を見据えて 2014 年（平成 26 年）に「地域医療構想」が制度化されました。



統轄病院長補佐

そして昨年 12 月、厚労省は「新地域医療構想」案を公表しました。これは高齢者の数がほぼピークを迎える 2040 年を見据えて高齢者の救急搬送や在宅医療に対応できる医療機関を可視化し医療機関の機能を明確にするというものです。この 2040 年と言うのは先の「団塊の世代」の子供達即ち「団塊の世代ジュニア」が生まれた 1971 年から 1974 年の第 2 次ベビーブームの世代が 65 歳以上になる年です。これまで社会を支えてきた世代が支えられる側に回ることにより、医療・介護・年金と言った社会保障費を圧迫することになります。「団塊の世代ジュニア」も毎年 200 万人以上生まれ、最多は 1973 年の 209 万人でした。この後出生数は右肩下がりに減少してきたため 2040 年が高齢者数がピークになると言うわけです。2040 年には 65 歳以上の高齢者は 3,928 万人に上り全人口の 35%以上に達すると推計されています。2040 年まであと 15 年しかありません。

「新地域医療構想」では土浦協同病院は高度手術や救急医療に当たる「急性期拠点機能」を担うことになるでしょう。しかし今や大学病院を含む全国の急性期病院が莫大な赤字に喘いでいます。これはウクライナ戦争をきっかけとしてエネルギーや原材料価格が高騰した事が一因です。他の業種と違って病院は診療報酬制度のため医療材料や人件費の値上がり分を医療費に転嫁できず高度医療を行えば行うほど経営は苦しくなります。

また生産年齢人口の減少に伴い医療従事者、特に看護師の確保が今以上に困難になっていきます。今でも病棟が開けずかかりつけ患者が急に具合悪くなっても応需できないと言う事態が生じています。

これらの課題を一気に解決する魔法の杖はありませんが、現在広岡病院長は一つ一つのコストを見直すと共に DPC コーディングの検証をゼロから行い、看護師の採用を促進するアプローチを行っています。私たちはこの地域の医療を守るという使命と喜びを持っています。広岡病院長のもと『団塊』では無く一枚岩となって困難を乗り越え新地域医療構想の一翼を担っていきますので職員の皆さん、地域の先生方、ご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。



リレー連載 第 46 回 専門看護師・認定看護師リレー便り

がん相談支援センター

緩和ケア認定看護師
釜崎 久美子

「がん相談支援センター」は、全国の「がん診療連携拠点病院」や「小児がん拠点病院」「地域がん診療病院」に設置されている、がんに関する相談窓口です。

当院では、2023 年 7 月より、がん患者に開かれた“窓口”へ、医療スタッフなどと“繋がり”、“希望”を見いだせる場所として、がんセンター窓口を新たに開設しました。そして、それらをイメージしたロゴマークも作成しています。（図 1）

その中で、がん相談支援センターは、患者さんだけでなく、ご家族や、この病院に通っていない地域の方々など、どなたでも無料・匿名で利用でき、主に面談または電話で相談することができます。「がん相談支援センター」では、がんについて詳しい看護師や、生活全般の相談ができるソーシャルワーカーなどが、相談員として対応しています。

診断や治療の状況にかかわらず、どんなタイミングでもがんに関するさまざまなことを相談することができます。治療の事や医療費の事、緩和ケアについて、また就労支援やピアサポート（がん体験者同士の集い）についてなど、医療従事者からも是非、進んで「がん相談支援センター」の活用を促して下さい。

図 1 ロゴマーク



卒園式を終えて

土浦協同病院付属保育所ひまわり

所長 渡辺章充

春の訪れを感じる日が増えた 3 月下旬の 21 日、第 16 回卒園式が行われました。卒園児 8 名、右も左も分からない幼児だった子どもたちもしっかりとたくましく成長し、この日を迎えました。「ともだちになるために」を大きな声で合唱した後、一人一人が壇上で歩みを進め、きちんと挨拶をして卒園証書を受け取っていきました。それから皆に向かって将来の夢を発表し、そして大好きなお父さん・お母さんに「ありがとう」の言葉と共に卒園証書を渡しました。私が直接育てたわけではないのですが、子どもから父・母へ証書が渡されるこの瞬間、私はいつも涙をこらえるのが大変です。1 つ下の在園児とのお別れのことも、皆しっかり出来ました。子どもたちの成長は本当にすごいものです。毎年感動を覚えます。小学校は別々になりますが、ひまわりで育った子どもたちがこれからも楽しく充実した日々を過ごしていくことを祈っています。



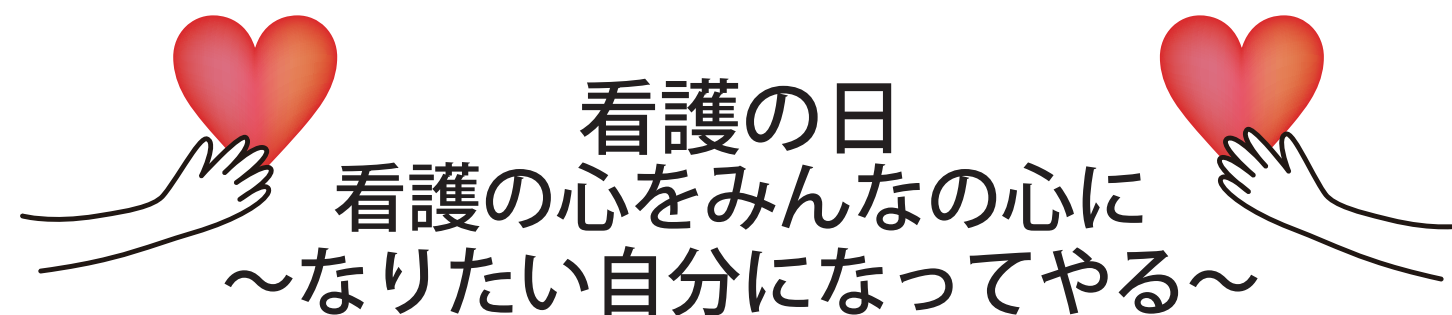
病院からのお知らせ

6月2日から 完全予約制 開始します

受診を希望される方は、予約センターにて事前予約の取得をお願いいたします。

● 消化器外科 ● 呼吸器外科

- ◆ 当日の予約外受付は原則行っておりません。
- ◆ 上記診療科に現在通院中の患者さんにつきまして、体調不良等による受診を希望される方は、各科受付ブロックまでご相談ください。



近代看護を築いたフローレンス・ナイチンゲールの誕生日にちなみ、5月12日は「国際看護師の日」に定めています。



栄養相談・健康相談の様子



当院では看護の日のイベントとして、健康チェック・健康相談・栄養相談・お薬相談・介護相談・附属看護学校学生募集・ポスター展示・華道部によるお花の展示・JA 水郷つくば農産物直売が行われました。



華道部によるお花の展示



〔藥劑師〕上杉英惠／診療美咲／大內麻吏／所詠也
 〔石毛希〕福田春香／治療放射線技師／梅谷森／臨
 床檢查技師〕高野真衣／鈴木明日香／小室文哉／臨
 藤泉／石田琴乃／武田春維／関根凜／関根凜／理学
 療法士〕坂田凪／作業療法士／高柳愛梨／言語聴覚士
磯野加奈／桑野千佳／臨床工学技士／文倉美穂／管
 理栄養士〕有馬果々／小貫真生／社会福祉士／梶中
 哉〕救急救命士／山崎恵太／事務員／飯村司／菊池
 桃樺／斉藤好美／根本紗香

<https://www.tkgh.jp>